

<研究課題>

研究課題名 : 「児童虐待対応におけるアセスメントの在り方に関する調査研究(現地調査)」

研究者所属 : 愛育研究所 客員研究員 / 産業技術総合研究所 人工知能研究センター

研究者氏名 : 高岡昂太

研究予定期間 : 令和3年(2021年)承認後 ~ 令和4年(2022年)3月31日

研究費種別 : その他

(令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 課題番号27「児童虐待対応におけるアセスメントの在り方に関する調査研究」)

および 厚労科研 政策科学総合研究事業 「児童虐待対応におけるリスクアセスメントのためのデータ収集基盤構築とAIを活用したリスク評価に向けた研究」)

倫理審査 : 受付番号 第1号「承認」(2021年09月7日)

<研究概要>

【背景】これまで、児童虐待対応におけるアセスメントツールは、現場で培われた経験のみに依拠する傾向にあった。昨年度、同課題研究において、科学的に担保されたアセスメントツールの開発を目指して、全国の児童相談所・市区町村の児童虐待対応部門を対象に調査を行なった。各候補項目の予測的妥当性や信頼性について検討を行い、実践利用可能なアセスメント項目数として30項目程度を厳選する形でツールを提案した。しかし、児童相談所および市区町村関係機関でどのように利活用すべきか、および、利活用促進に向けてどのような方策をとれば良いのかといった、実践上の課題が残っていた。

【目的】本調査の目的は、昨年度同課題研究において開発したセーフティアセスメントツールの、利活用促進に向けた方策の検討である。児童相談所・市区町村の児童虐待対応部門といった関係機関を対象に、同アセスメントツールの簡易研修や試行的導入・運用を行う現地調査を実施する。調査を通して、導入における障壁や、業務実態との整合性、ツールそのものの使用感など、運用の課題を洗い出す。

【方法】アセスメントツールについて簡易研修を行った上で、緊急受理会議等で または 過去の事例をもとに実際にツールを運用してもらう。ツールの試行的運用の前後にはインタビューを実施し、改善点や要望をヒアリングする。なお、本現地調査は、各自治体の掲げる感染症対策などに十分な配行って現地にて実施される予定であるが、自治体の対策基準によっては、オンライン対応となる可能性がある。

【期待される成果】本研究によって、セーフティアセスメントツールの利活用促進に向けた、現場の実態に即した具体的な方策が検討されることになり、より迅速な子どもの安全や職員の業務効率の向上が期待される。そして、今後のさらなる研究の展開の基盤整備にもつながる。その記録データが蓄積されることで、後続する子ども虐待研究における研究基盤が構築され、子どもの安全を目的とした各種研究の発展および質の向上につながることが期待される。